

17 千種川上流部・西河内川・河内川 (千種町)

保全 魚道の無い横断工物が少ない。冷水性魚類が生息し、水系内で、もっとも上流域らしい魚類相がみられる。

課題 標高の高い山間部ではあるが、河岸に自然林や二次林がまとまってみられる箇所は少ない。一部に低水護岸の箇所や河床の平坦化が顕著な箇所がみられる。



16 岩野辺川・西山川

課題 いずれの河川も魚道の無い横断工物が高い密度で存在する。西山川の一部は三面張り区間。



14 佐用川上流部

保全 千種川水系において、唯一オオサンショウウオの繁殖が確認されている。



12 佐用川水系

課題 ほとんどの支川で、魚道の無い横断工物が高い密度で存在する。山田川、須安川、西河内川などの小河川では、三面張り区間もみられた。河床の状況は、随所に露岩が目立つほか、浮石が顕著に少ない地点、大型糸状緑藻が繁茂する地点が散在しており、土砂供給の不足を示唆する結果が得られた。中流部としては水温がやや高い傾向にある。

11 千種川中流部 (苔縄〜大酒付近)

保全 横断工物が少なく、水際の低水護岸率がとくに低い。



10 鞍居川・岩木川・細野川

課題 いずれの支川も魚道の無い横断工物が高い密度で存在する。細野川下流部は減水区間がみられた。岩木川下流部では、水系内でもっとも高い夏季水温が確認された。



08 安室川

保全 下流部には山付き部が見られる。谷底平野に湧水があり、夏季水温は上流よりも低下する。湧水帯は珍しい暖流性の魚類の生息河川として知られている。下流部は本川とつらなるタナゴ類の生息地。

課題 中流〜上流部、支川では魚道の無い横断工物の密度が高い。中流部では大面積の湛水域が形成されており、低水護岸率が高い。中下流部の湛水域を中心として、オオクチバス・ブルーギルが侵入している。



07 千種川 (安室川合流付近)

課題 河床の礫の浮上率がやや低い傾向にあり、大型糸状緑藻の繁茂も目立つ。底生動物の種類もやや少ない傾向にある。オオクチバスも確認されている。



05 千種川下流部・加里屋川・長谷川・矢野川下流部・安室川下流部

保全 武庫川水系上流部とならんで、県下有数の規模で存在するタナゴ類の生息地。これまでに確認された種類も県内でもっとも多い。

04 千種川下流部 (長谷川合流付近)

保全 山付き部がみられるほか、伏流水などがあるようで、夏季最高水温が上流地点よりも低下する。中流域を中心に生息する希少な魚類もみられた。



15 千種川中流〜上流部 (南光町〜千種町)

保全 全般に山付き部がみられ、とくに下流部では水際の低水護岸率が低く、瀬・淵の区別も認められ、比較的良好的な河川形態、景観が残されている。希少な魚類や昆虫類の生息地。いずれも、流れが比較的緩やかでありながら低水温、きれいな水質の河川でみられる。アユの良好な漁場。



課題 上流部では、やや浮石率が低い傾向がある。

13 志文川水系

保全 志文川上流部は、希少な魚類の生息が確認された。

課題 角亀川、本郷川などの支川は、いずれも魚道の無い横断工物が高い密度で存在する。一部の小支川では三面張り区間もみられた。角亀川、本郷川は、いずれも浮石率が低い傾向にあり、鎌倉川の一部ではツルヨシが河床に蔓延するなど、河道の固定化傾向を示唆する結果が得られた。弥谷川下流部には減水区間があった。

09 千種川中流〜下流部 (坂越付近〜佐用川合流)

保全 河道が大きな蛇行を描いて流れており、規模の大きな淵が集中してみられる。山付部 (水辺に接する自然林と二次林) がみられる箇所も多い。緩勾配〜中勾配の大河川としては、県下でも有数の良好な河川形態および水辺環境が残されている。アユの良好な漁場。

06 矢野川・高田川・長谷川

保全 矢野川下流部は、千種川の中ではエコトーン*2の植生の面積割合が高い区間である。千種川下流部とつらなるタナゴ類の生息地。



課題 矢野川は、とくに上流部において、魚道の無い横断工物が高い密度で存在するほか、一部に、三面張りの区間がみられる。矢野川・長谷川・高田川では、減水区間がみられた。矢野川中流部・小河川の一部では、河床に大型糸状緑藻の繁茂が目立った。

03 千種川下流部 (高雄付近)

保全 河道が大きく蛇行し、山付きの河畔林と大きな淵が発達する。ヤナギ林、オギ群集が発達し、県版 RDB では、それらを複合群落として、Cランクに指定している。



02 千種川下流部 (潮止堰)

課題 潮止堰の下流側で通し回避性*1の種類が多い傾向がある。魚道は設置されているが、効果的に機能していない可能性もある。



01 千種川下流・河口

保全 河口域には、県下でも最大級の干潟が存在し、貴重な環境、景観を有している。植物では、河口には多様な海浜植生、塩性湿地草原が成立する。その上流部には、県下でも有数の広大なヨシ原が発達しており、是非とも保全が望まれる区間である。魚類、底生動物では、汽水域や干潟にすむ特定種・希少種や通し回避性*1の魚類も遡上している。



課題 低水護岸率が非常に高く、水際は比較的単調。

*1 「通し回避性」…海と川を往復する生活史を送る性質
*2 「エコトーン」…陸域と水域の境界となる水際のように異なる環境が連続している場所 (=移行帯)

全体区分

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点

- 調査地点

回避種の確認上限

- 近年の確認上限
- 過去の確認上限

植生から見た流程区分

- ツルヨシ・ネコヤナギ型
- 移行帯
- オギ・ツルヨシ型
- 感潮域

横断工物の確認位置 (水面比高0.2m以上)

- 魚道あり
- 魚道なし

間取調査による名前のある淵の現状

- 無くなった
- 浅くなった / 狭くなった
- 変わらない
- 不明

予察調査による河川環境の記録

- 課題が見つかった箇所